

2024・11

柏の景気情報

令和6（2024）年11月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和6年11月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

回答期間：令和6年11月19日～令和6年12月4日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数81

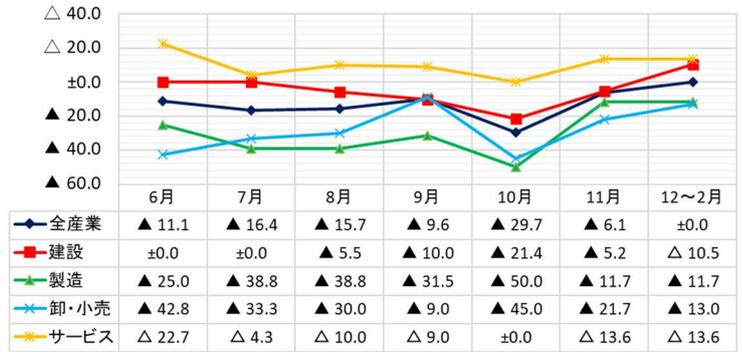
各業界で求める職種の人員が未だ不足、人員確保に影響する「103万の壁」に対する注目が高まる

11月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲6.1（前月水準▲29.7）となりマイナス幅が23.6ポイント縮小した。

各業界内で、職種によって人員確保にばらつきがある状況。製造業では、年末年始の大型連休による売上減少の懸念の声。一方、卸・小売業、サービス業では人員確保に苦戦しつつも、年末年始の忘年会、季節商品による売上上昇を期待するコメントが見受けられる。

現在「103万の壁」について注目が集まっている。今後の動向によって、人材確保への影響が考えられる。

柏の景気情報・産業別業況DI



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「闇バイトの事件を受け防犯意識が高まり、面格子など3か月以上の納期がかかる状況。」（一般土木建築工事）「103万円の壁だけではなく、全部の壁を取っ払った方がいいと感じる。税金は減ってしまうが、消費者が消費しやすい環境にし、経済を回した方がいいと思う。また、壁の解消により人員が確保しやすくなる為、経営者としても助かる場面が増える。」（塗装工事）



製造業

「人手不足の為、募集をしているが職種によって募集に大きな差がある。特に営業職の募集については募集が少なく、なかなか採用に至らず、困っている」（自動車・同附属品製造）「コロナウイルスの影響が一段落して各業界の設備投資が活発化している。働き方改革・賃上げ・人手不足などの影響が今後出ると思われるので、企業は生産の効率化と省力化を進めて、人員削減を実行していくと思う」（一般産業用機械・装置製造）「年末年始月は、年末年始休暇や取引先が大型連休のため売上は減少し納入材料など高騰し、収益も期待できず厳しい状況が続く」（その他の鉄鋼）



卸・小売

「天候に左右されるので、今までの暖かい秋はマイナス要因だが、今後の寒い冬はプラス要因。その為、クリスマス及び年末年始は上昇を期待している。人件費と光熱費が上昇しており、仕入先の価格転嫁も出来ない為、経営は厳しい。全体として採用も出来てきて人件費は使えているが、生鮮の労働環境は嫌われており、生鮮の人手不足は続いている。店内移動やアウトソーシングも考慮しているが、打開策とまでは言えない。103万の壁が議論されているので、2025年度の契約面談では個々の働き方をヒアリングして対応していきたい」（大型小売店）「やっと気温の低下がみられる日が散見され、秋物商材が売れ始めた11月だった」（その他の各種商品小売）



サービス業

「飲食店では早くも忘年会需要が11月から始まっている感があり、年末に向けて活況の兆しを感じる。ただし、従業員の定着と採用が困難な為、繁忙期の人員不足な度でビジネスチャンスを最大限活かしかねない懸念があるなどバランスの悪さを痛感する」（専門料理店）「秋から冬の国内旅行・海外旅行低調。旅行費用が国内海外を問わず高値であり、特に海外旅行は渡航先の物価の影響、円安による旅行控えが顕著。人手不足は相変わらず、いわゆる「壁」のことについては注目している」（旅行）「売上は堅調だが、仕入・消耗品・修繕費・エネルギー価格が上がり続けており利益が圧迫される」（ゴルフ練習場）

★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲6.1に対し、「CCI-LOBO」が▲16.3で、柏のほうがマイナス幅が10.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 6.1	 ▲ 5.2	 ▲ 11.7	 ▲ 21.7	 13.6
CCI-LOBO	 ▲ 16.3	 ▲ 12.6	 ▲ 20.4	 ▲ 23.2	 ▲ 8.5
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 4.9	 ▲ 5.2	 ±0.0	 ▲ 4.3	 27.2
CCI-LOBO	 ▲ 1.6	 ▲ 3.6	 ▲ 6.7	 ▲ 7.5	 10.6
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.1	 5.2	 ▲ 29.4	 ▲ 39.1	 18.1
CCI-LOBO	 ▲ 16.4	 ▲ 15.0	 ▲ 20.0	 ▲ 23.2	 ▲ 9.8
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 59.2	 ▲ 47.3	 ▲ 58.8	 ▲ 78.2	 ▲ 50.0
CCI-LOBO	 ▲ 63.7	 ▲ 68.8	 ▲ 58.3	 ▲ 69.3	 ▲ 62.5
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.4	 42.1	 5.8	 13.0	 31.8
CCI-LOBO	 22.7	 39.3	 10.1	 20.4	 29.3
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 8.6	 10.5	 ▲ 23.5	 ▲ 21.7	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 7.5	 ▲ 15.4	 ▲ 17.5	 ▲ 11.0

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(11月速報)

調査期間：2024年11月14日～20日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、個人消費の伸び悩み続き、横ばい圏内

先行きは、年末年始商戦への期待から上向き基調

11月の全産業合計の業況DIは、▲16.3と前月比からプラス0.9ポイント。

製造業は、堅調な自動車関係や鉄鋼関係を中心に改善した。卸売業は、農畜産水産物関係の育成不振が続く一方、足元では天候の安定に伴い、先月の大幅悪化から改善した。建設業は、公共工事の下支えで横ばい圏内にとどまったが、深刻な人手不足を訴える声が多い。サービス業は、消費者の節約志向が続く中、電気代等のコスト増が重荷で悪化し、小売業は、買い控への影響が根強く、力強さを欠いている。

原材料価格に対する価格転嫁は一定の進捗が見られるものの、人材確保に向けた

労務費や円安基調、電気代等の高騰に対する転嫁は引き続き追い付いていない。また、実質賃金の伸び悩みで消費者の生活防衛意識は高く、個人消費の伸び悩みが続き、中小企業の業況は横ばい圏内となった。

先行き見通しDIは、▲14.6と今月比からプラス1.7ポイント

断続的に続く原材料価格や電気代の高騰、最低賃金の引き上げによるコスト増が続く中、深刻な人手不足や価格転嫁の遅れなど、長期的な経営課題の山積は続いている。

一方、冬の賞与増加やクリスマス・忘新年会需要などの年末年始商戦による売上拡大が見込まれる。また、経済対策による電気・ガス代等の補助や給付等、政府の後押しも期待され、先行きは若干の上向き基調が見込まれる。

【建設業】「社内の人材不足はもちらんのこと、協力会社も職人

を中心に慢性的に人手が足りない状況であり、抱えている案件の納期を守るのに精一杯である。新規の案件も話が出てくるが受注できない」（建築工事業）

「工事量が変わらない中、人手不足と残業時間規制で作業日数が増えてしまい、新規の受注に影響が発生している」（管工事業）

【製造業】「重機や車両関係の需要が増加しており、売上は堅調に推移している。今後は冬にかけて除雪車両などの修理案件の増加が見込まれるが、光熱費や労務費も重ねて増加するため、楽観視はできず、慎重にならざるを得ない」（鉄鋼業）

「為替が安定しないため、見積もりへの反映が難しく、価格転嫁の足かせになっている」（ニット・シャツ製造業）

【卸売業】「今夏の猛暑の影響で青果の育成が悪く、仕入価格の高騰は続いているが、天候が安定したことで、一時よりは流通が安定してきている。年末にかけて一層の収穫量・流通量の安定を望む」（農畜産水産物卸売業）

「足元で再び円安基調に戻り、望ましいレートには程遠い状況が続いている。円建て以外の輸入の継続が厳しい状況である」（建築材料卸売業）

【小売業】「電気代等のエネルギー価格の高止まりや最低賃金の引き上げに伴う人件費の増加が経営を圧迫する中、継続する物価高で消費者の生活防衛意識が高まっており、日用品を中心に消費が冷え込んでいる。また、気候変動で冬物衣料の需要も少なく、売上確保が厳しい状況である」（百貨店）

「今月は天候も良く、イベント等での売上が好調であった。一方で、消費者の購買意欲の低迷は根強く、通常日は売上の伸び悩みが続く」（製菓小売業）

【サービス業】「原材料や電気代の高騰、最低賃金の上昇による従業員の時給の見直しなど、コスト負担

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
6月	▲16.2	▲18.7	▲17.6	▲23.3	▲22.2	▲6.0
7月	▲16.3	▲13.1	▲22.8	▲24.0	▲20.8	▲5.4
8月	▲15.4	▲11.6	▲24.4	▲19.9	▲18.4	▲5.2
9月	▲14.1	▲8.4	▲23.4	▲16.1	▲18.7	▲4.3
10月	▲17.2	▲11.8	▲22.0	▲26.1	▲24.1	▲6.9
11月	▲16.3	▲12.6	▲20.4	▲19.0	▲23.2	▲8.5
見通し	▲14.6	▲11.7	▲18.6	▲13.4	▲20.4	▲8.9

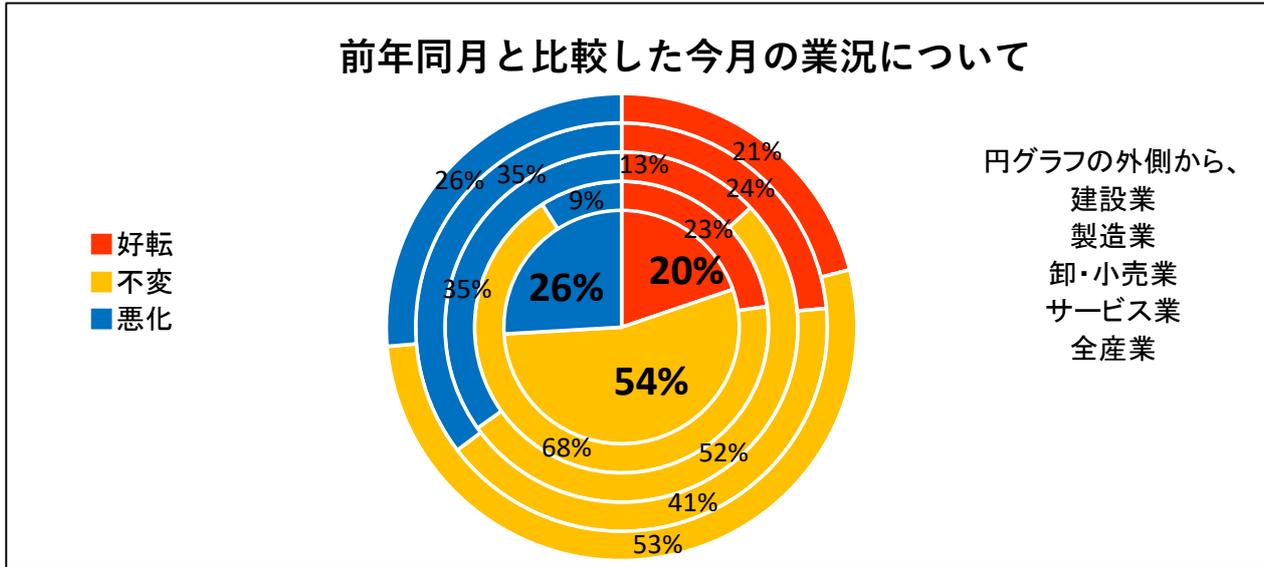
増が続いている。また、慢性的な人手不足の中、就労調整が加わり、人材確保の悩みは絶えない」（飲食店）

「人手に余裕があると思っていたが、少し多忙になると業務が回らないことが増えてきており、危機意識が出てきた」（運送業）

令和6年（2024年）11月の動向

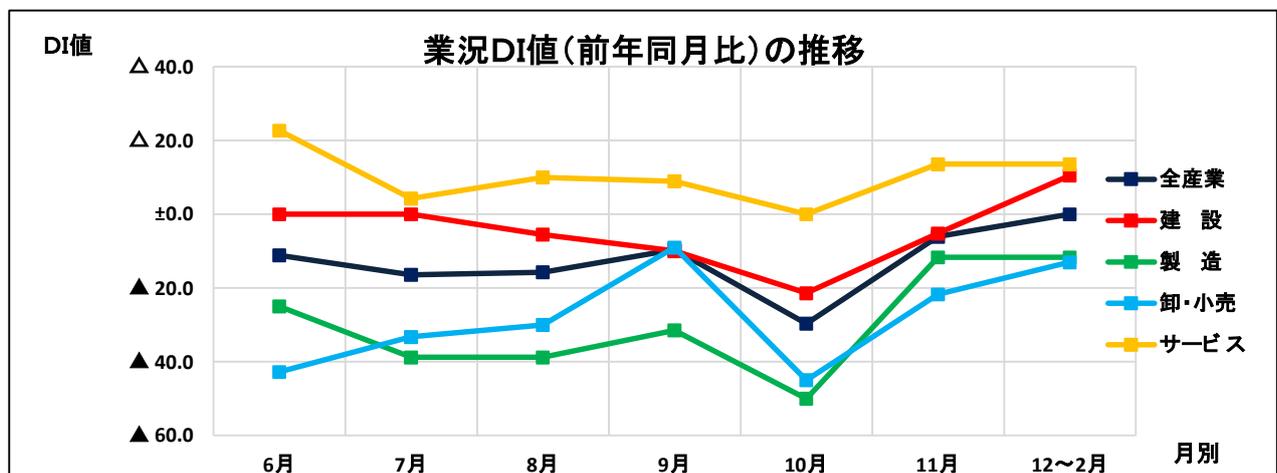
【業況について】

- 11月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲6.1（前月水準▲29.7）となり、マイナス幅が23.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（12月から2月）の先行き見通しについては、全産業では、△0.0（前月水準△2.7）となり、マイナス幅が2.7ポイント縮小した。



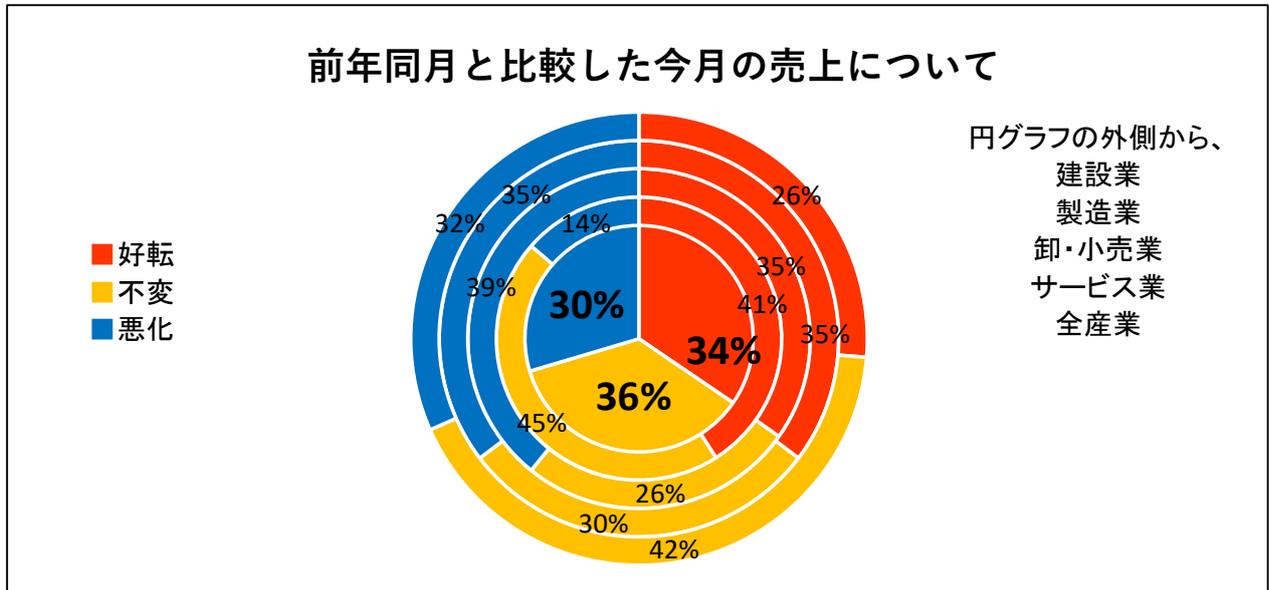
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 (11~1月)	
全産業	▲11.1	▲16.4	▲15.7	▲9.6	▲29.7	▲6.1	±0.0 (△2.7)	
建設	±0.0	±0.0	▲5.5	▲10.0	▲21.4	▲5.2	△10.5 (△7.1)	
製造	▲25.0	▲38.8	▲38.8	▲31.5	▲50.0	▲11.7	▲11.7 (▲5.0)	
卸・小売	▲42.8	▲33.3	▲30.0	▲9.0	▲45.0	▲21.7	▲13.0 (▲10.0)	
サービス	△22.7	△4.3	△10.0	△9.0	±0.0	△13.6	△13.6 (△20.0)	



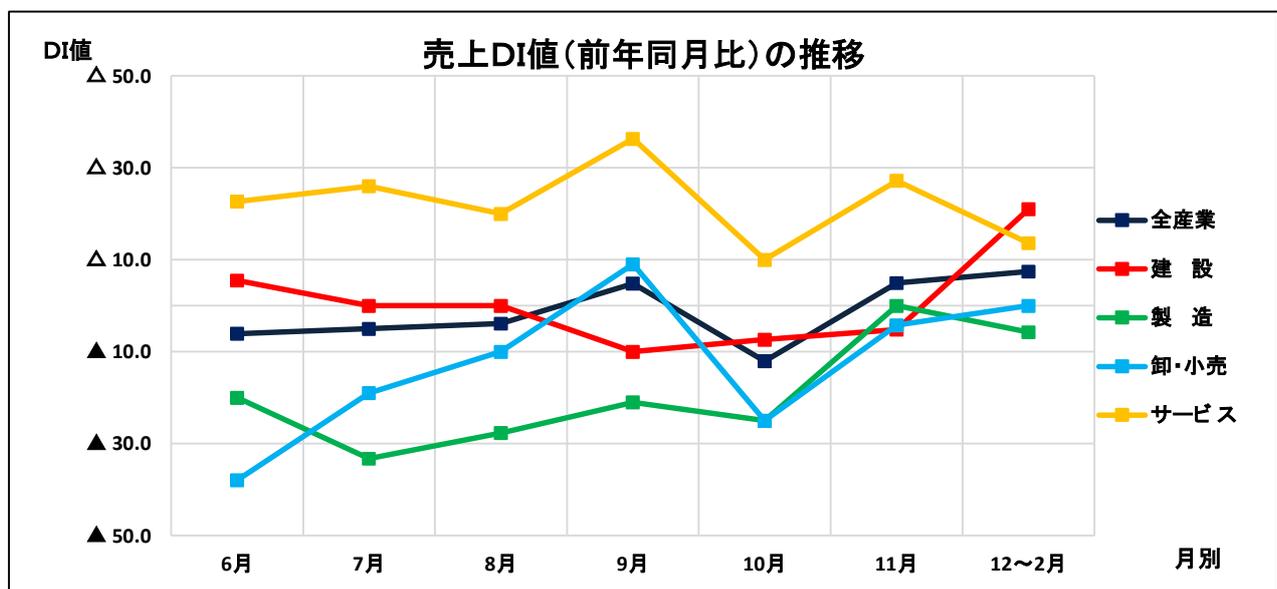
【売上について】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△4.9(前月水準▲12.1)となり、マイナス幅17.0ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△7.4(前月水準△6.7)となり、プラス幅が0.7ポイント縮小した。



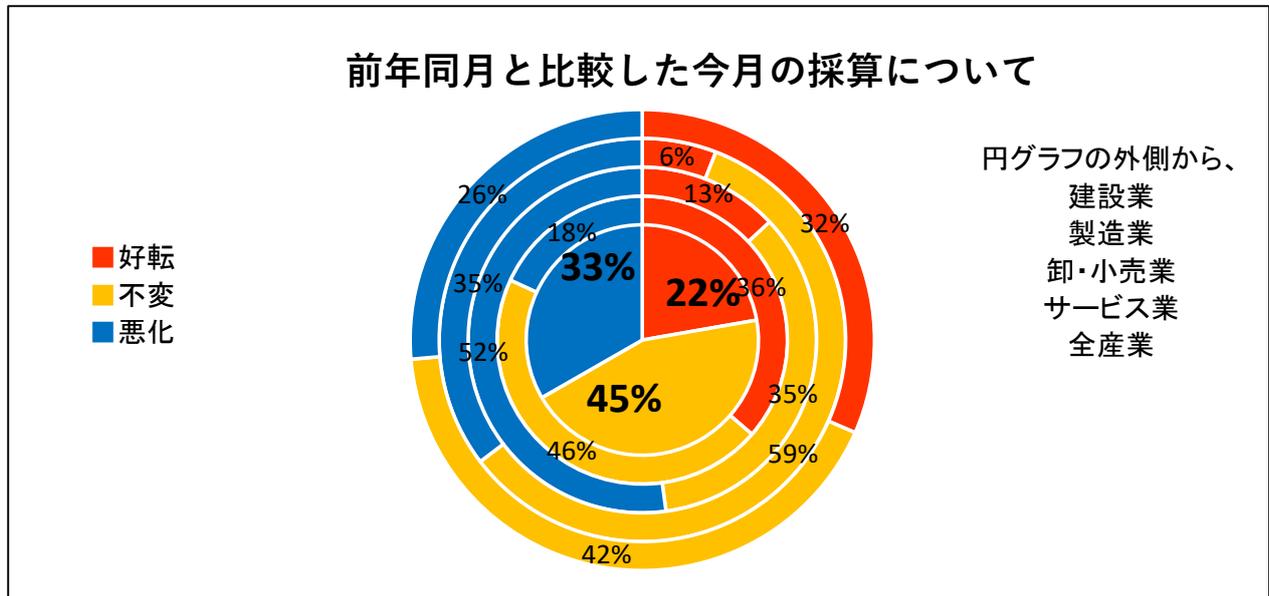
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月	(11~1月)
全産業	▲6.1	▲5.0	▲3.9	△4.8	▲12.1	△4.9	△7.4	(△6.7)
建設	△5.5	±0.0	±0.0	▲10.0	▲7.4	▲5.2	△21.0	(△14.2)
製造	▲20.0	▲33.3	▲27.7	▲21.0	▲25.0	±0.0	▲5.8	(△5.0)
卸・小売	▲38.0	▲19.0	▲10.0	△9.0	▲25.0	▲4.3	±0.0	(▲10.0)
サービス	△22.7	△26.0	△20.0	△36.3	△10.0	△27.2	△13.6	(△20.0)



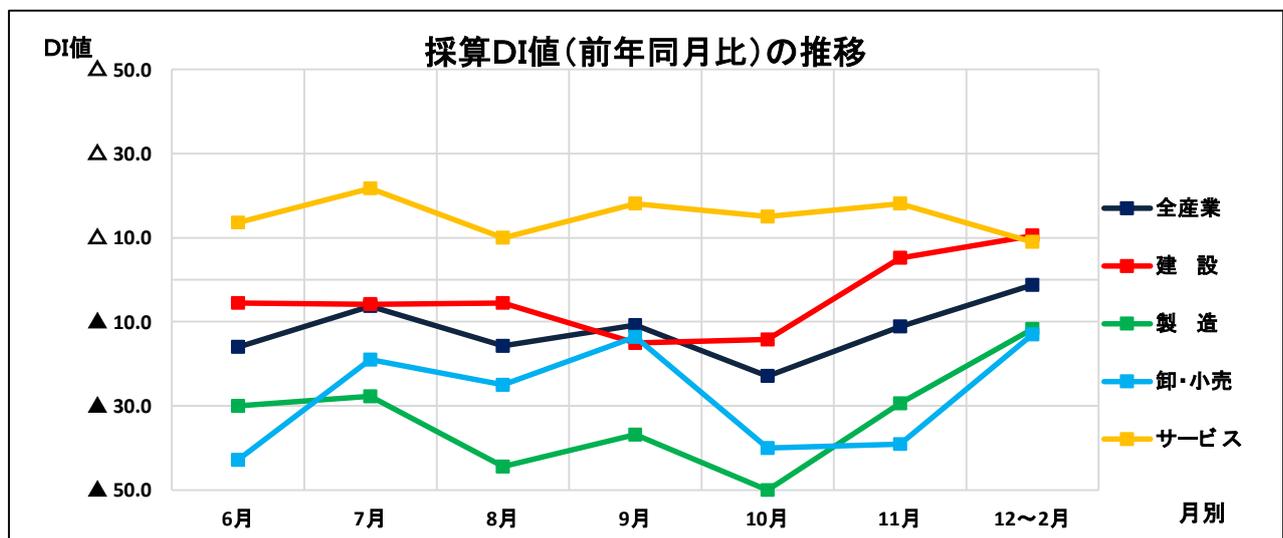
【採算について】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.1(前月水準▲22.9)となり、マイナス幅が11.8ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.2(前月水準▲4.0)であり、マイナス幅が2.8ポイント縮小する見通しである。



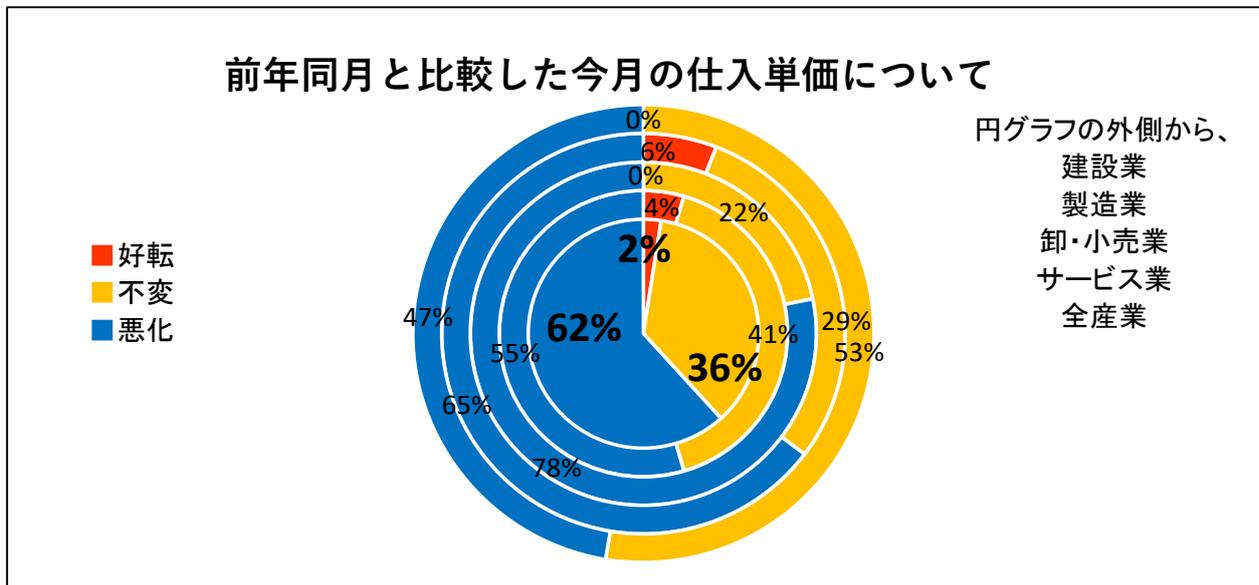
採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 (11~1月)	
全産業	▲16.0	▲6.3	▲15.7	▲10.8	▲22.9	▲11.1	▲1.2 (▲4.0)	
建設	▲5.5	▲5.8	▲5.5	▲15.0	▲14.2	△5.2	△10.5 (△7.1)	
製造	▲30.0	▲27.7	▲44.4	▲36.8	▲50.0	▲29.4	▲11.7 (▲15.0)	
卸・小売	▲42.8	▲19.0	▲25.0	▲13.6	▲40.0	▲39.1	▲13.0 (▲15.0)	
サービス	△13.6	△21.7	△10.0	△18.1	△15.0	△18.1	△9.0 (△10.0)	



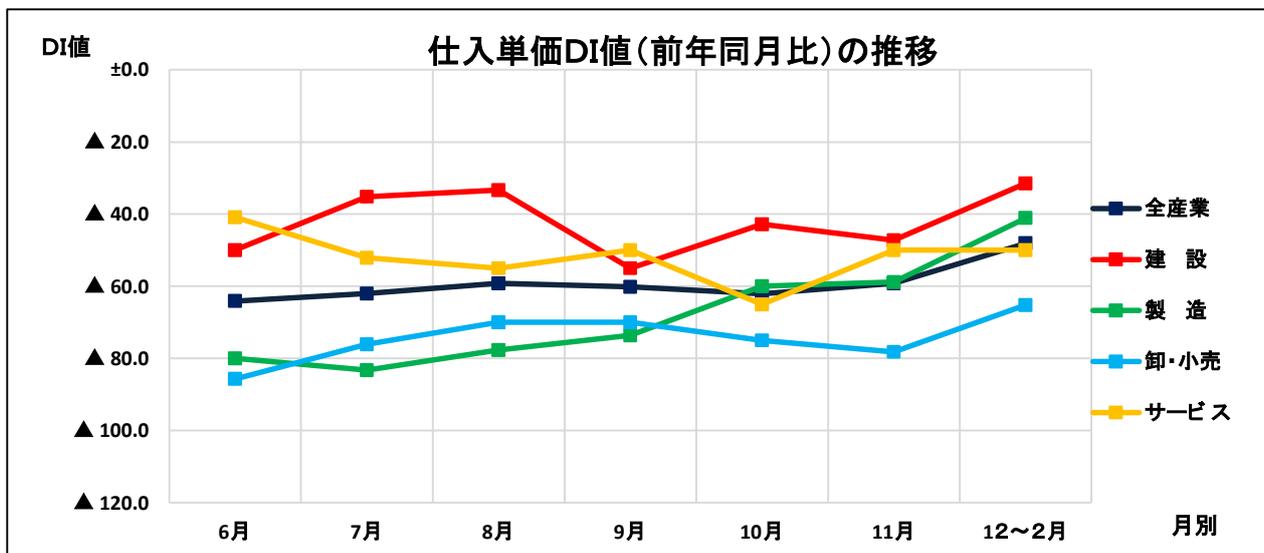
【仕入単価について】

- 11月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲59.2(前月水準▲62.1)となり、マイナス幅が2.9ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、▲48.1(前月水準▲54.0)となり、マイナス幅が5.9ポイント縮小する見通しである。



仕入単価D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

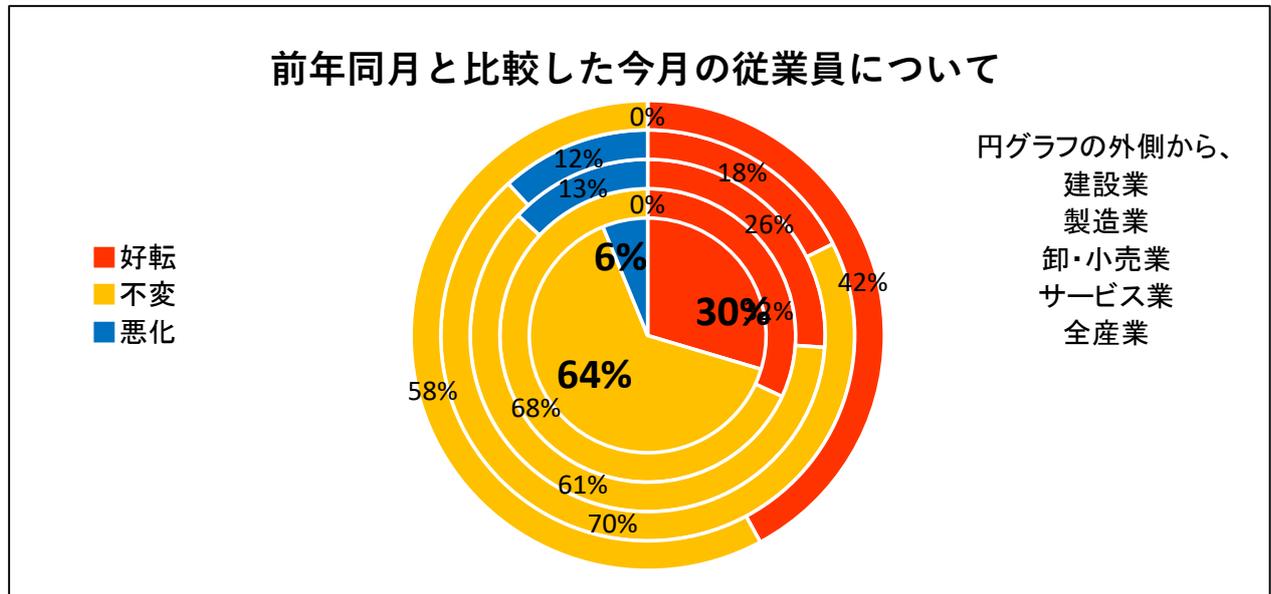
	令和6年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月(11~1月)	
全産業	▲64.1	▲62.0	▲59.2	▲60.2	▲62.1	▲59.2	▲48.1(▲54.0)	
建設	▲50.0	▲35.2	▲33.3	▲55.0	▲42.8	▲47.3	▲31.5(▲42.8)	
製造	▲80.0	▲83.3	▲77.7	▲73.6	▲60.0	▲58.8	▲41.1(▲45.0)	
卸・小売	▲85.7	▲76.1	▲70.0	▲70.0	▲75.0	▲78.2	▲65.2(▲75.0)	
サービス	▲40.9	▲52.1	▲55.0	▲50.0	▲65.0	▲50.0	▲50.0(▲50.0)	



【従業員について】

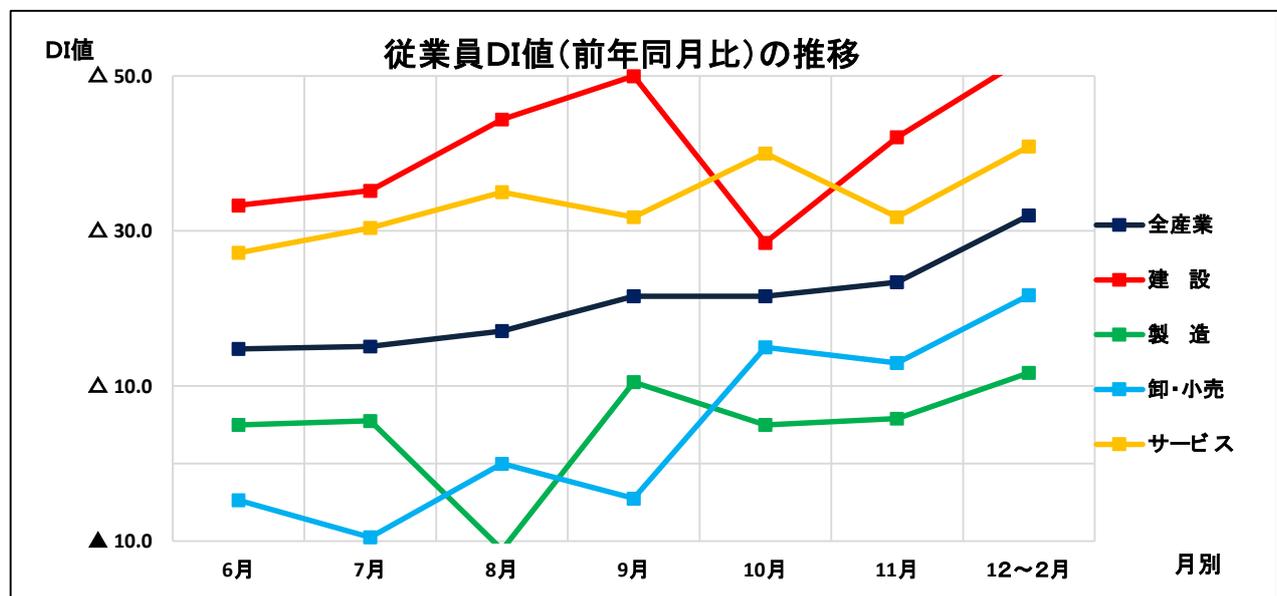
○ 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△23.4(前月水準△21.6)となり、プラス幅が1.8ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(12月から2月)の先行き見通しについては、全産業では、△32.0(前月水準△27.0)となり、プラス幅が5.0ポイント拡大する見通しである。



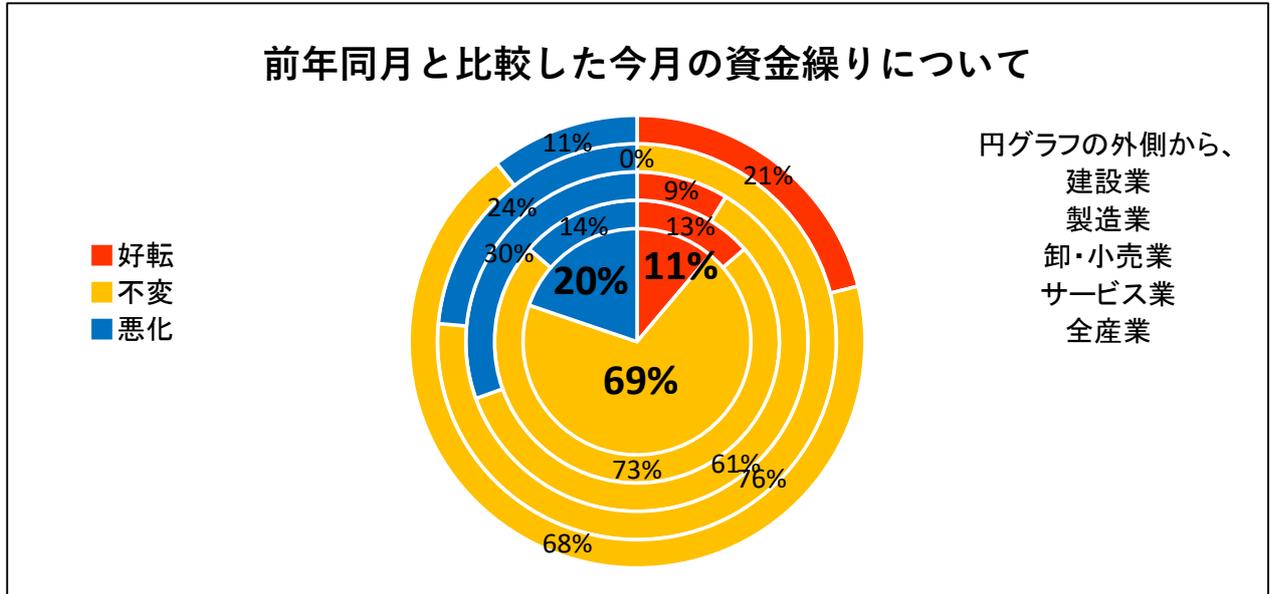
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月 (11~1月)	
全産業	△14.8	△15.1	△17.1	△21.6	△21.6	△23.4	△32.0 (△27.0)	
建設	△33.3	△35.2	△44.4	△50.0	△28.5	△42.1	△52.6 (△42.8)	
製造	△5.0	△5.5	▲11.1	△10.5	△5.0	△5.8	△11.7 (△5.0)	
卸・小売	▲4.7	▲9.5	±0.0	▲4.5	△15.0	△13.0	△21.7 (△20.0)	
サービス	△27.2	△30.4	△35.0	△31.8	△40.0	△31.8	△40.9 (△45.0)	



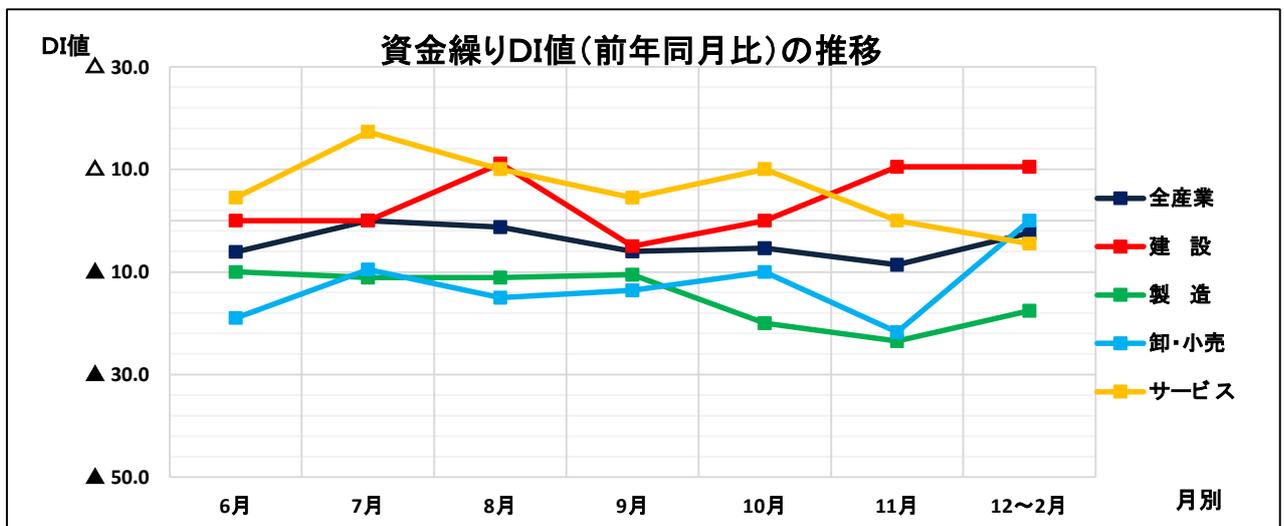
【資金繰りについて】

- 11月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.6(前月水準▲5.4)となり、マイナス幅が3.2ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.4(前月水準▲2.7)となり、マイナス幅が0.3ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年						先行き見通し	
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12~2月	(11~1月)
全産業	▲6.1	±0.0	▲1.3	▲6.0	▲5.4	▲8.6	▲2.4	(▲2.7)
建設	±0.0	±0.0	△11.1	▲5.0	±0.0	△10.5	△10.5	(△7.1)
製造	▲10.0	▲11.1	▲11.1	▲10.5	▲20.0	▲23.5	▲17.6	(▲10.0)
卸・小売	▲19.0	▲9.5	▲15.0	▲13.6	▲10.0	▲21.7	±0.0	(▲10.0)
サービス	△4.5	△17.3	△10.0	△4.5	△10.0	±0.0	▲4.5	(△5.0)

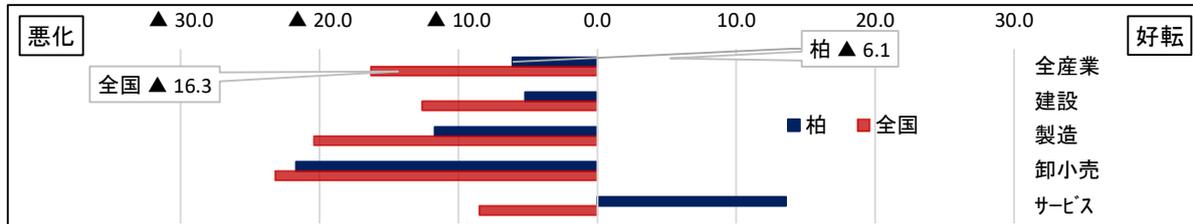


全国（CCI-LOBO）との比較

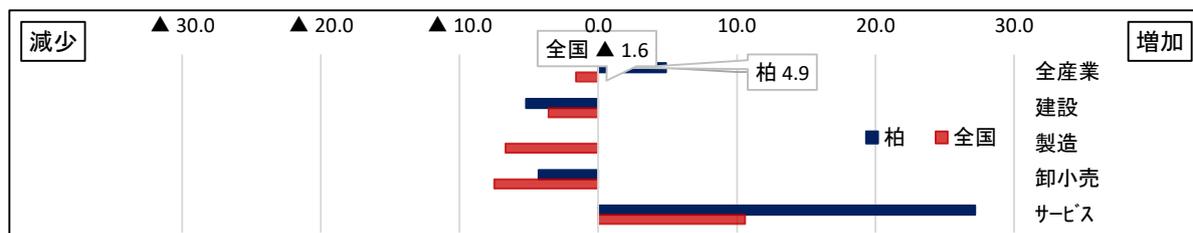
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

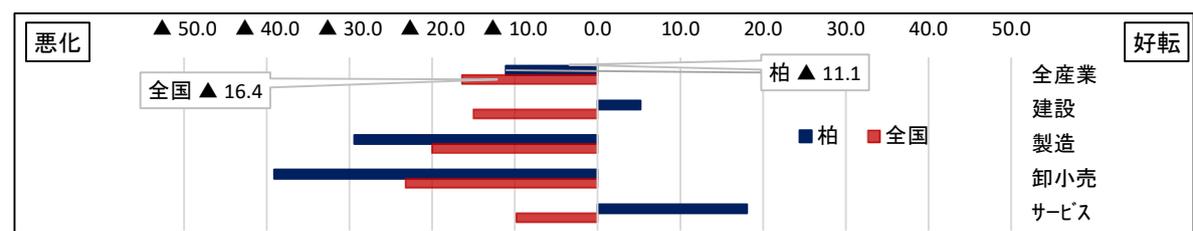
【業況D I】



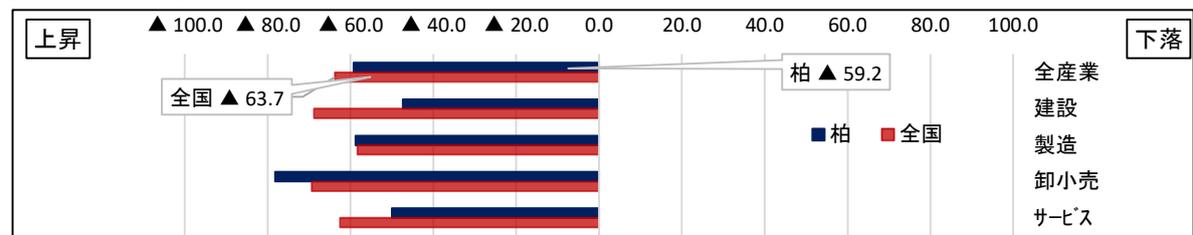
【売上D I】



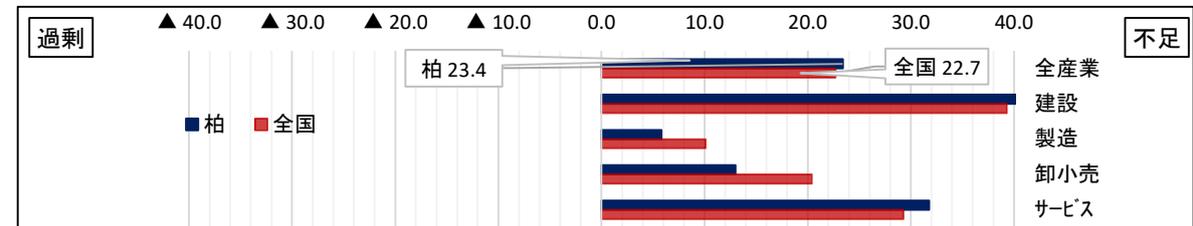
【採算D I】



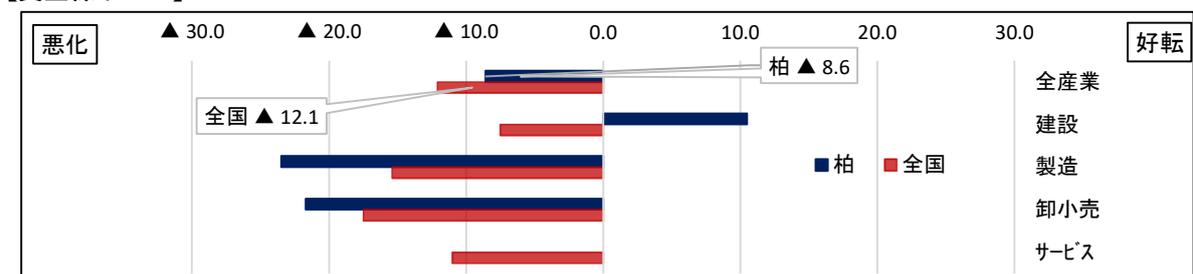
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	闇バイトの事件を受け防犯意識が高まり、面格子など3か月以上の納期がかかる状況です。	一般土木建築工事業
	年末に向けての畳工事の受注が好調。	畳工事請負・畳製造販売業
	103万円の壁だけではなく、全部の壁を取っ払った方がいいと感じる。税金は減ってしまうが、消費者が消費しやすい環境にし、経済を回した方がいいと思う。また、壁の解消により人員が確保しやすくなる為、経営者としても助かる場面が増える。	塗装工事業
製造業	支払サイトを120日から60日に変更したことによる資金繰りの悪化、3月の年度末に向けての受注量の減少傾向がみられる	その他の機械・同部品製造業
	年未年始月は、年未年始休暇や取引先が大型連休のため売上は減少し納入材料など高騰し、収益も期待出来ず厳しい状況が続く	その他の鉄鋼業
	人材不足の為、募集をしているが、職種によって応募に大きな差がある。特に営業職の募集については応募が少なく、なかなか採用に至らず、困っている。	自動車・同附属品製造業
	商いは大きく状況が変わる要因がなく横ばい。業務プロセス改善のためのコンサルティング導入。第一段階として業務の棚卸、部署間で重複している箇所がないか。	金属製品
	・新製品の販売により売上数量は増加。但し、製品トータルで海外輸出が計画に及ばず対前年で利益減少。 ・退職等に伴う欠員については随時補充採用ができています。	酒類製造業
	コロナウィルスの影響が一段落して各企業の設備投資が活発化しています。働き方改革・賃上げ・人手不足などの影響が今後出ると思われるので、企業は生産の効率化と省力化を進めて、人員削減削減を実行していくと思います。	一般産業用機械・装置製造業
卸・小売	・天候に左右されるので、今までの温かい秋はマイナス要因ですが、今後の寒い冬はプラス要因です。よって、クリスマス及び年未年始は上昇を期待しております。 ・人件費と光熱費が上昇しており、仕入れ先のような価格転嫁もできないため経営は厳しい。 ・全体として採用もできて人件費は使えているが、生鮮の労働環境は嫌われており、生鮮の人手不足は続いている。 店内移動やアウトソーシングも考慮しているが、打開策とまでは言えない。 ・103万の壁が議論されているので、2025年度の契約面談では個々の働き方をヒアリングして対応していきたい。	大型小売店
	*柏駅東口ではイトーヨーカドーが閉店し丸井も閉店する。東口の再開発を早急に進めて欲しい。	その他の各種商品小売業

【業種別】業界内トピックス

【業種別】業界内トピックス		
業	<p>やっと気温の低下がみられる日が散見され、秋物商材が売れ始めた11月でし</p>	その他の各種商品小売業
	<p>・一般的に気温が高めも好天が多く、人流・入店は堅調に推移した。月の後半に世の中全体で“ブラックフライデー”など低価格訴求での消費喚起も後押しし、客数・客単価も上昇し、カテゴリーを問わず売上高が前年を上回った。 一方で年末に向けた“節約志向”に取引先からの不安視の声は残る。</p>	百貨店
サービス業	<p>TX沿線の地価の上昇が予想以上</p>	不動産賃貸・管理業
	<p>飲食店では早くも忘年会需要が11月から始まっている感があり、年末に向けて活況の兆しを感じる。ただし、従業員の定着と採用が困難な為、繁忙期の人員不足などでビジネスチャンス最大限活かしきれない懸念があるなどバランスの悪さを痛感する。</p>	専門料理店
	<p>建築費等は、上昇しています。不動産価額は高止まりしています。消費者は、慎重に物件を見極めて、購入しています。色々な物価も値上がり傾向が続いています。</p>	不動産管理業
	<p>秋から冬の国内旅行・海外旅行低調 旅行費用が国内海外を問わず高値であり、特に海外旅行は渡航先の物価の影響、円安による旅行控えが顕著、人手不足は相変わらず、いわゆる「壁」のことについては注目している。</p>	旅行
	<p>売上は堅調だが、仕入・消耗品・修繕費・エネルギー価格が上がり続けており利益が圧迫されている。</p>	ゴルフ練習場

調査要領

回答期間

令和6年11月19日 ~ 令和6年12月4日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	81	46.8%
建設	38	19	50.0%
製造	44	17	38.6%
卸・小売	46	23	50.0%
サービス	45	22	48.9%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				